

平成 25 年 8 月 31 日
一般社団法人日本気象予報士会

第 6 回 気象予報士 C P D 制度創設準備委員会

日時 8 月 3 1 日 (土) 1 5 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0

場所 京橋プラザ区民館 1 号洋室

議 事 次 第

1. 委員長あいさつ
2. C P D 認定制度創設に向けての経過報告 (資料 1)
3. C P D 管理システムについて (資料 2)
4. 建設系 C P D 協議会への加盟について (資料 3)
5. C P D 運営委員会の創設に向けて (資料 4)

以上

気象予報士CPD制度創設準備委員会 出席者名簿

(敬称略)

○ 委員長

田中 博 公益社団法人日本気象学会 常任理事 教育と普及担当
(筑波大学生命環境科学研究科 教授)

○ 委員

杉浦 幸彦 いであ株式会社 執行役員
高田 吉治 株式会社応用気象エンジニアリング 代表取締役社長
岩谷 忠幸 NPO法人気象キャスターネットワーク 副代表 事務局長
常盤 勝美 株式会社ライフビジネスウェザー 取締役 情報制作部長
平松 信昭 一般社団法人日本気象予報士会 理事副会長

○ 欠席

○ オブザーバー

吉武 正憲 株式会社ウェザーニューズ チームリーダー (予定)
酒井 重典 一般社団法人日本気象予報士会 代表理事会長
岩田 修 // 専務理事幹事長

○ 事務局

平松 信昭 事務局長
雨宮 浩樹 一般社団法人日本気象予報士会 常務理事
内山 常雄 // 常務理事

以上



CPD認定制度創設に向けての経過報告

2013年8月31日

一般社団法人日本気象予報士会
CPD制度創設準備委員会事務局

Certified and Accredited Meteorologists of Japan

気象予報士CPD制度創設の目的(1)



- 気象予報士は、一度取得すると一生涯有効な資格
- 科学技術は日々進歩し、各種情報の多様化、高度化が進展している
- 特に、気象に関連しては、観測および予測技術の進展が急速で、防災情報として発信される内容も常に改善され、非常に精緻化・高度化している
- すべての気象予報士は絶えず最新の技能や情報をアップデートしていく必要がある

Certified and Accredited Meteorologists of Japan

気象予報士CPD制度創設の目的(2)



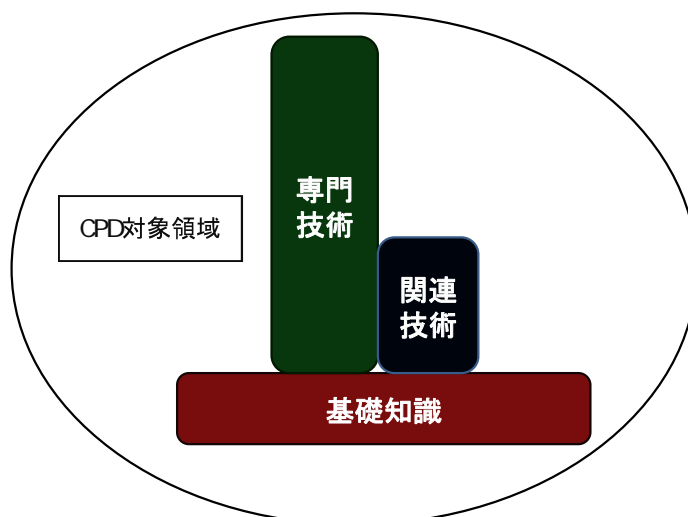
- Continuing Professional Development
- 継続的スキル研鑽プログラムの中で、他の技術系の国家資格で広く取り入れられている
 - 例(技術士法第47条):「技術士は、常に、その業務に関して有する知識及び技能の水準を向上させ、その他その資質の向上を図るよう努めなければならない。」
- 気象予報士資格においてもスキル研鑽の機会を提供し、それを活用して**技能の維持向上**に努めた気象予報士を評価し、企業等においてより積極的に活用していくしくみを創設することによって、気象予報士の**地位向上**と**活動場の拡充**に資するのが本CPDの目的である

Certified and Accredited Meteorologists of Japan

気象予報士CPD制度の概要(教育分野)



- CPDの教育分野として、他の先行する組織のCPD分野を参考に、CPDの対象分野を3つに分類した



Certified and Accredited Meteorologists of Japan

気象予報士CPD制度の概要(形態と単位)



- CPDプログラムは、**講習会、研修会への参加学習**を基本に、論文等の発表、企業内研修やOJT、技術指導を加える
- **業務経験、委員会へ参加や自己学習などについても毎年一定時間数をCPDポイントとして認定する**
- 内容によって、時間、日、月単位で評価し、「**時間重み係数**」でCPDポイントへの換算割合を調整する
- 認定にあたっては、**複数の形態で取得することが望ましい**。少なくとも業務経験や自己学習だけで、認定条件を満たすことが無いように最大時間数を設定する

Certified and Accredited Meteorologists of Japan

気象予報士CPD制度の概要(取得目標)



- CPDの取得目標は、**1年間に20ポイント以上、3年間で120ポイント以上**とする
- そのうち、基礎知識または関連技術は3年間で10ポイント以上の取得を目標とする
- 過去3年間に、上記のCPD目標を満たした気象予報士は、「**CPD認定気象予報士**」とする
- 初めてCPDに登録する気象予報士は、初回の認定時には過去1年間の実績が20ポイント以上で認定を与える

Certified and Accredited Meteorologists of Japan

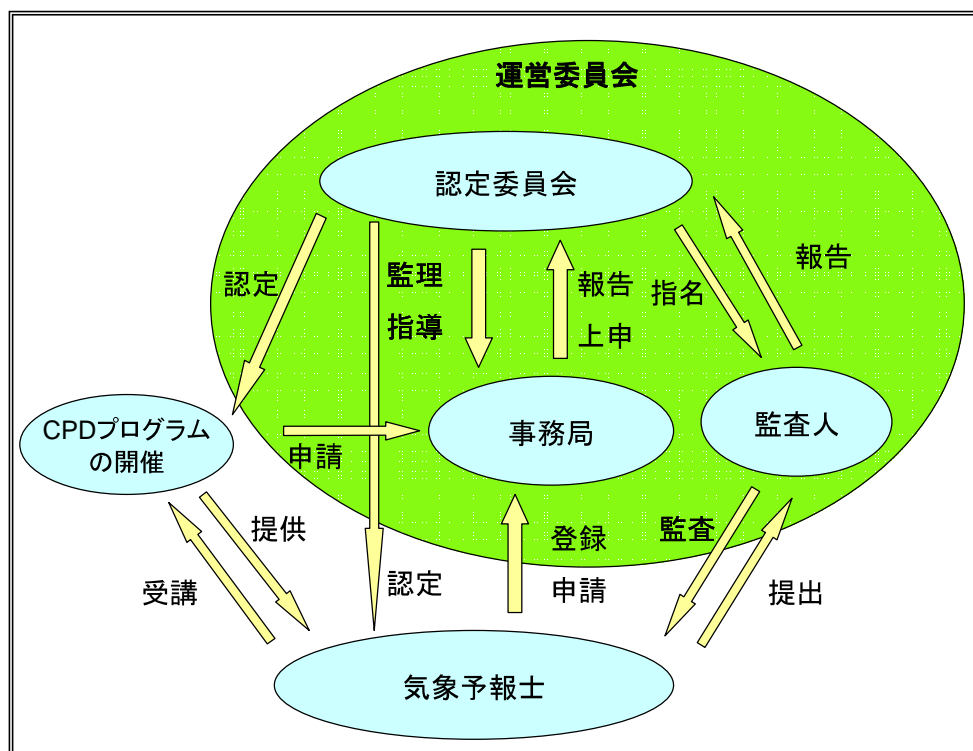
気象予報士CPD制度の概要(運営組織)



- 気象予報士CPDの**認定(運営)組織**としては、様々な立場の組織から代表される**委員会組織**とする
- 本制度の準備委員会が社団法人日本気象学会、一般社団法人日本気象予報士会、NPO気象キャスターネットワーク、複数の民間気象会社から委員を選定されていることから、CPD認定組織も同様の委員構成を目指し、今後、さらに委員会への参加を広く呼びかける

Certified and Accredited Meteorologists of Japan

気象予報士CPDの運営組織のイメージ



Certified and Accredited Meteorologists of Japan

スケジュール(当初計画)



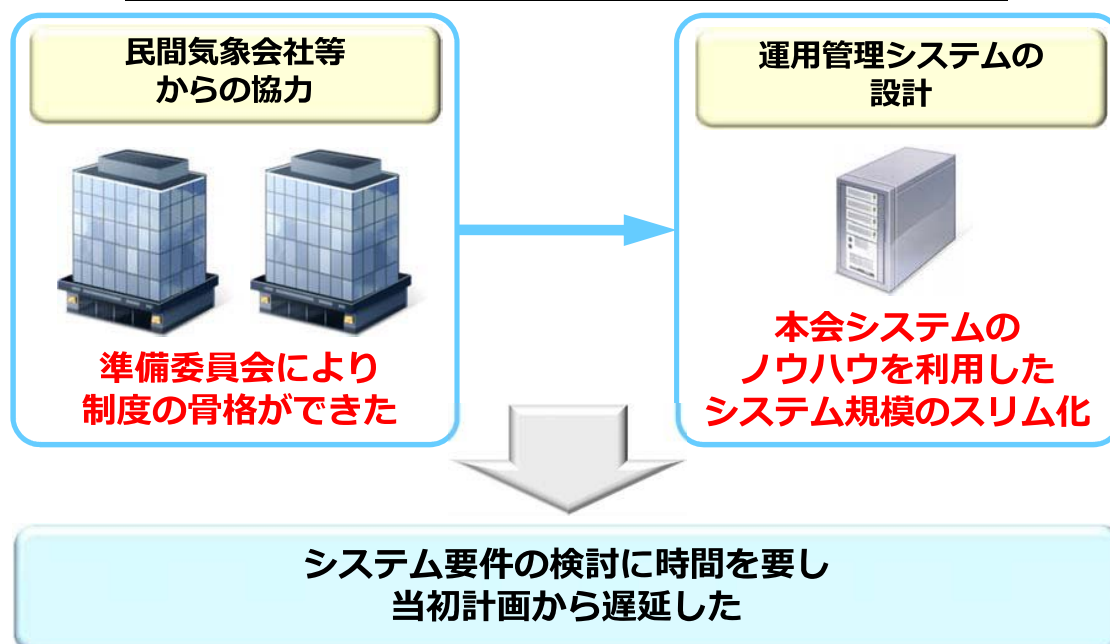
- 2012年 7月 CPD運営委員会の組織化
- 2012年 10月 システム設計と開発
- 2013年 4月 CPD制度の試行スタート

Certified and Accredited Meteorologists of Japan

気象予報士CPD制度創設準備



「2013年4月 CPD制度試行スタート」を計画



Certified and Accredited Meteorologists of Japan

前年度からの経過(1)



システム設計に向けて想定の見直し

当初の想定:

- CPD会員 2,000人(目標)
 - 当初経費 400万円(団体・企業の協賛)
 - システムは独立して構築
- 課題:
- 資金調達の困難、規模の適正さの見直し
 - 当初会員は 200人くらい

Certified and Accredited Meteorologists of Japan

前年度からの経過(2)



課題への対応

➤ 現実的に可能な範囲でまずスタート

- 当面のCPD会員 100~200人
 - 当初経費 50万円(団体・企業の協賛)
 - システム構築経費の圧縮
- 予報士会会員情報管理ページ形式で構築

Certified and Accredited Meteorologists of Japan



CPD管理システムについて

2013年8月31日

一般社団法人日本気象予報士会

1



システムの機能

- IDとパスワードで会員の管理を行う。
- CPDの記録を会員に手入力させ、保持する。
- CPDの行事を表示し、申し込みを受け付ける。
- 上記に参加した場合は管理者が一括登録できる。

- CPD認定会員の条件判定を行い、認定書発行手続きを行う。
- CPD記録の証明書を発行する。

2



1. CPDの入力（修正）

1-1. 講演会等での受講

1-2. 論文等の発表

1-3. 企業内研修及びOJT

1-4. 技術指導

1-5. 業務経験

1-6. 委員会等への参加

1-7. その他

2. CPDポイントの取得状態

2-1. 年度別CPD実施一覧

2-2. CPD実施／不足分野傾向

3



3. 各種証明書の発行申請

3-1. WEB申請

3-2. 登録証明書等の発行記録の表示

3-3. 申請の手順 及び CPD認定会員条件

4. 会員情報の参照・変更

4-1. 基本情報（氏名・住所・電話番号等）

4-2. 就業する気象予報士許可事業者の履歴

4

5. 事務局

- 5-1. 公認プログラム登録
- 5-2. 公認プログラムの出席入力
- 5-3. 各種証明書の申請・処理状況
- 5-4. CPDポイントの取得状態（会員指定）
- 5-5. CPDポイントの取得状態（全体）
- 5-6. 条件抽出による一斉メール発信

6. マスタ管理

- 6-1. 形態マスタ（親）
- 6-2. 形態マスタ
- 6-3. 形態・読替えマスタ
- 6-4. 教育分野マスタ（親）
- 6-5. 教育分野マスタ
- 6-6. 会員情報マスタ
- 6-7. 会員情報マスタ（補足1）



5

ログイン画面



CPD登録システム

- 1. CPDの入力（修正）
- 2. CPDポイントの取得状態
- 3. 各種証明書の発行申請
- 4. 会員情報の参照・変更
- 5. 事務局
- 6. マスタ管理

ログインレベルで表示される機能は制限する

GO TOP

75%

6

1-1 A. 講習会等での受講（新規・修正）

開催期間 2013 年 4 月 6 日 日

題名 ああああ

内容 いいいい

主催者 うううう

時間 13 : 00 ~ 16 : 00

場所 〇〇記念センター

形態

- 講習会・研修会での受講 (1×3 H)
- 講習会・シンポジウムでの聴講 (0.5×H)
- 現場見学会等への参加 (3×D)

教育分野

大分類	記号	ポイント	教育分野
専門技術	<input checked="" type="checkbox"/> A	1	観測と成果の利用
	<input checked="" type="checkbox"/> B	1	予報に関する事
	<input type="checkbox"/> C		気象予報
	<input type="checkbox"/> D		精度評価
	<input type="checkbox"/> E		気象業務関連法規
	<input type="checkbox"/> F		その他
関連技術	<input type="checkbox"/> L		コミュニケーション技術
	<input type="checkbox"/> M		情報技術
	<input type="checkbox"/> N		その他
基礎知識	<input type="checkbox"/> R		防災
	<input checked="" type="checkbox"/> S	1	環境
	<input type="checkbox"/> T		その他気象
	<input type="checkbox"/> U		教養
	<input type="checkbox"/> V		法律・契約
	<input type="checkbox"/> W		倫理
	<input type="checkbox"/> X		その他

証明ファイルのアップロード

アップロード/挿入

アップロードした画像のサムネイル(クリックで大きく表示)

削除

削除チェックボックス

登録

注: 入力用印「穴」が必須項目 (更新1)

形態を選択すると、時間入力欄を表示し、時間を入力するとポイントを表示します

ポイント数: 3 P

時-分に分ける (更新1)

少数点以下1桁まで (更新1)

ポイント数: 3 P

配分ポイント: 3 P

***計算がありました

記号をチェックすると、ポイント欄を表示し、ポイントを入力すると、配分ポイントが計算されます。

7

2-1. 年度別CPD実施一覧

登録番号	氏名	CPD認定会員期間
111111	佐藤 真由美	2013-04-01 ~ 2015-03-31

1. 形態別CPD取得ポイント

■2013年度

形態	上限ポイント	ポイント	進捗
講習会等での受講	-	8	<div style="width: 40%;"></div>
論文等の発表	-	100	<div style="width: 100%;"></div>
企業内研修及びOJT	20	3	<div style="width: 15%;"></div>
技術指導	-	15	<div style="width: 75%;"></div>
業務経験	20	0	<div style="width: 0%;"></div>
委員会等への参加	10	0	<div style="width: 0%;"></div>
その他	10	0	<div style="width: 0%;"></div>

合計: 126 ポイント

2. 教育分野別CPD取得ポイント

■2013年度

教育分野	分類記号	ポイント	進捗
観測と成果の利用	A	32	<div style="width: 64%;"></div>

8

3-1. WEB申請



No.	項目	申請手続き	発行等の手数料	申請状況 申請の取下げ
1	CPD認定会員カード 申請	下のボタンを押下して申請 開始	3,000 円/カード	
2	CPD登録証明書 申請	下のボタンを押下して申請 開始	1,000 円/回 (注1)	2013-4-17 申請中 取下げ

3-1.WEB 申請-① 画面へ

申請中ならば取消可 担当にメール

ステータス表示 (更新1)
取下げボタンは取下げ可の時のみ

3-1. WEB申請 (認定基準のチェック)

登録番号	氏名	基準年度	認定期間
111111	佐藤 真由美	2013年度	2013-04-01 ~ 2015-03-31

[基準年度変更](#)

1. 取得したCPDポイント

年度	専門技術	関連技術	基礎知識	合計
2013	10	0	30	40
2012	0	0	0	0
2011	0	0	0	0
合計	10	0	30	40

申請できます → 申請に進む

条件を満たしていなければクリックできない

2. 認定に必要な要件

No.	要件	2013年度の申請
1	専門技術、関連技術、基礎知識の3分野のうち、過年度3年間で複数分野でのCPDポイントを持していること。	複数分野でのCPDポイントを取得している
2	基礎知識で、過年度3年間で30ポイント以上を取得していること。	-
3	過年度3年間に合計で90ポイント以上を取得していること。	2013年度に20ポイント以上取得している

建設系CPD協議会への加盟について



一般社団法人日本気象予報士会

建設系CPD協議会とは

1. 目的

建設系分野に係わる技術者の能力の維持・向上を支援するため、関係学会および協会間でのCPD(継続教育)の推進に係わる連絡や調整を図ることを目的としています。

2. 設立 平成15年7月25日

3. 加盟団体(会員)

- 会長:馬場直俊(一般社団法人 建設コンサルタンツ協会常任理事、セントラルコンサルタンツ(株)社長)
- 副会長:小前隆美(公益社団法人 農業農村工学会専務理事)

4. 加盟団体(16団体)

(公社)空気調和・衛生工学会、(一社)建設コンサルタンツ協会、(公社)地盤工学会、(一社)森林・自然環境技術者教育会、(一社)全国測量設計業協会連合会、(一社)全国上下水道コンサルタント協会、(一社)全国土木施工管理技士会連合会、(公社)土木学会、土質・地質技術者生涯学習協議会(事務局:(一社)全国地質調査業協会連合会)、(一社)日本環境アセスメント協会、(公社)日本コンクリート工学会、(公社)日本技術士会、(公社)日本建築士会連合会、(公社)日本造園学会、(公社)日本都市計画学会、(公社)農業農村工学会

5. 事務局 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会

(平成25年6月現在)

組織の役割とメリット

- 加盟団体が主催するCPDプログラム情報(講習会や講演会等の開催情報)や加盟団体が認定したCPDプログラム情報を提供。
- CPD制度に係わる諸活動の調整
 - あまり進んでいない
 - 磁気カードのフォーマットの統一
- 意見交換(年1回のシンポジウムの開催)
- CPDに取り組む技術者の利益向上
 - 加盟組織の発行するCPD記録は公式文書として、公共事業の受注のポイントになる

運営経費

- 協議会への加盟
 - 入会金 10万円(システム登録料として)
 - 年会費 200万円を応分
 - 組織の人数、プログラム数のランク
(50,000~200,000円)

加盟手続き

- 申請書類の提出
制度内容、会員数など
- 幹事会での説明
3か月1回程度、開催される幹事会で説明
幹事会で加盟の承認が決定される
→年内に申請書類の提出
平成26年度からの加盟を目指す

CPD運営委員会の創設に向けて

2013年8月31日

一般社団法人日本気象予報士会

運営コスト概算

- 初年度経費の概算
 - プログラム開発費 100万円
 - 4年間償却で、25万円／年とする
 - 建設系CPD協議会加盟費 10万円
- 年間運営費用 ……70万円+ α
 - 委員会費用 10万円
 - 管理費(職員人件費) α 部分(250万円)
 - システム運用費 12万円
 - システム保守費 10万円(+25万円)
 - 建設系CPD協議会 会費 約13万円

運営費の捻出について

- 年間維持コストはCPD参加者と法人会員の会費とプログラム認定費等でまかなう。
- CPDに参加する個人会員は、年4000円を徴収する。
(ただし、日本気象予報士会会員の場合、半額を補填する。)
- 参加人数は初年度が100人程度、早期に300人(会員の10%)の参加を目指す。
- 法人会員から1社あたり1口10万円とし、5社以上の獲得を目指す。
- 法人会員1口あたり、最大10名の登録を認める。
- 公認プログラムの認定時に、5000円+プログラム参加費1名分を徴収する(ただし、国、地方公共団体および公益法人が開催するものは免除する。)
→70万円以上を確保

運営委員会の組織化案

- 日本気象学会および法人会員から運営委員を募り、運営委員会を組織する。
- 運営委員会は、年3~4回の開催とする。
- 運営委員会の下に、認定委員会、事務局、監査委員会を設置する。
- 認定委員会は、月1回程度の開催とし、認定委員は運営委員会の推薦するもの(3名以上)を充てる。
- 事務局は、日常の事務処理を行うが、当面、日本気象予報士会が担当する。
- 監査委員会は、年2回以上の開催とし、監査人は運営委員会の推薦するものを充てる。